

令和5年度社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）

施設名 近代美術館

評価基準 (達成度)	達成 (目標値 \geq 100%)	○
	ほぼ達成 (目標値 \geq 80%)	△
	未達 (目標値 $<$ 80%)	×

○全館共通項目

		取組の内容		自己点検		
		1年間の目標値	実現方策	達成値	達成度	課題・対応の方向
利用状況	満利用者	95.2%	アンケートに示された意見を活用して改善を行う	95.5%	○	利用者からのアンケート要望などを丁寧に読み取り、対応に努めるなど引き続き満足度向上に努める。
	入館者	70,000人	広報に努め一層の集客を図る	87,775人	○	引き続き魅力的な展示・講座を実施し、入館者数の増加に努める。
	加教育・普及事業への参	増加させる (前年度) 1,169人	ニーズを汲み充実を図る	1,581人 (ただし、近代美術館入門講座の参加人数含む。配布924部、スタンプラリー等は除く。)	○	講座・イベントに加え普及教育教材の配布等を充実させ参加者の増加に努める。また、スタンプラリーについても継続的に実施する。
	インターネットアクセス	増加させる (前年度) 美術館ウェブサイトアクセス数 745,194件	改修したホームページを活用して訪問者のニーズに応える	642,627件	△	昨年度に比べ事業情報の発信においては積極的に実施したが総訪問者数、総参照ページ数ともに昨年度を下回る結果となった。 利用者がインターネットアクセスしたくなる魅力的な展覧会、イベント等を企画し、美術館の利用促進に努める。
資料・収蔵品	活用	増加させる (前年度) 280点	県民共有の財産との観点から有効活用を努める	1,039点 (展示作品総数)	○	館内展示利用数、特別仕様許可申請数ともに大幅に増加している。一方で館外貸出件数、画像貸出件数はほぼ横ばいであった。 今後も県民共有の財産の有効活用増加に努めていく。
		18件	館内展示利用数	26件		
		17件	特別利用許可申請数	16件		
		35件	館外貸出件	37件		
		350件	画像貸出件数	1,118件		
		計				

	維持管理	美術作品の保存に適正な環境を維持	PFI 事業者 に保存環境 の維持履行 を求め、職 員として適 正な取扱い を実施	ほぼ達成	△	業務計画書で定めた要求水準書において、一部改善を要する点があることから、PFI 事業者への働きかけを強めていく。
調査研究	研究成果の公開 (発表・印刷物等)	増加させる (前年度) 4 件 7 件 5 件 10 件 0 件 6 件	研究成果を積極的に公開し美術館員の学術成果を発信する 文献等の執筆数 図録等執筆数 新聞・雑誌等寄稿数 専門的な講座 学会や研究会等での発表件数 競争的外部資金の獲得件数	8 件 10 件 15 件 4 件 5 件 4 件	×	文献等の執筆数、図録等執筆数、新聞・雑誌等寄稿数、学会や研究集会での発表件数については増加しており、今後も継続して研究成果を積極的に公開等する。 一方で、専門的な口座件数、競争的外部資金の獲得件数については減少しており、件数向上に努める。
情報発信	事業情報の発信	増加させる (前年度) 6,763 件 8 件 323 件 8 件	X(旧ツイッター)フォロワー数 参考資料送付件数 SNS 投稿数 チラシ・ポスター発行件数	7,827 件 8 件 523 件 8 件	○	各展覧会、展示作品、講座、イベント情報、カタログフェア等を X(旧ツイッター)に投稿し、積極的に広報活動を行った。 引き続き、魅力的なコンテンツを作成し、着実な情報発信に努める。

施設運営等	観覧料収入 事業等収入	(予算ベース) 51,224千円 (前年度実績) 57,632千円	展覧会の鑑賞を通じて県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図る	39,857千円	×	鎌倉別館、葉山館で実施した展覧会のうち、一部展覧会を除き想定よりも観覧料収入が伸びず不調であった。 このことから令和6年度においては、現在の広報活動に加え、美術専門誌への掲載委託を予算に計上することで全国の美術に興味を持つ層の人々等へ広報することで観覧料収入の増加を狙う。 図録については、展覧会場とミュージアムショップが別棟であることから観覧者が図録の存在に気付かない場合が多くあった。 図録によって展覧会内容をより深めていただき、売り上げも広報させるため、エントランス内に図録を自由に手に取って見られるスペースを新設したり、図録の魅力を紹介する手書きのポップを作成したりすることで観覧者とのタッチポイントを増やした。 結果として観覧料収入に反して図録収入の売り上げを増やすことができた。
	施設点検	(記述式) 一層魅力ある施設を作る。	職員自ら他者目線で点検する	職員自らPFI事業者とともに修繕箇所や不具合がないか確認を行っており、発見した修繕箇所は修繕計画に反映させている。	○	安全な施設運営を実現できている。引き続き、安全で快適な施設の維持とともに、だれにも日書かれたインクルーシブな施設環境を目指し、点検結果を修繕計画や事業計画に反映させ、適切な施設点検を行っていく。
	自己研鑽及び他館の研究	(記述式) 積極的に研修に参加するとともに他館との情報交換・共有に有益な会議等への参加を増やす。	研修に参加しやすい環境を整える。 オンライン方式により会議・研修を行う。	社会包摂などに関する研修を行う。	△	自己研鑽として学芸員等がそれぞれの専門分野を深め、学会や研究会、刊行物での発表をできる環境を整える。また、他館の職員と意見交換の場を持ち、他館の運営についての知識を得られるように努める。

注) 各論は各館独自の取組みを中心に評価項目や指標を設定する。